令和6年度第2回長浜市未来こども若者会議 要点録

- 1 日 時 令和6年9月2日(月) 17:00~19:00
- 2 開催場所 長浜市役所1階 多目的ルーム2~3
- 3 出席者 ○委員(12名)
西川会長、宮本副会長、大橋委員、佐々木委員、鎌田委員、梅田委員、
山岡委員、柏崎委員、中川委員、山内委員、澤委員、脇坂委員
○市の出席者(事務局)
未来創造部：中嶋部長、村崎次長(局長)
未来こども若者局：藤田管理監、山口管理監、為永管理監
未来こども若者課：小谷課長、茂森副参事、小川副参事、段主査、狩野主査、
堀井主事
政策デザイン課：山崎係長 こども家庭支援課：岸下課長
こども家庭支援課家庭児童相談室：森室長
健康推進課：前田課長、守本課長代理、濱田副参事
幼児課：奥村参事、稲葉課長代理 教育委員会事務局：高山次長
ブラッシュアップ部会：川村主事、伊藤主事、阪東主事
Next-i株式会社：安村氏
- 4 欠席者 中澤委員、水上委員、荒井委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 内 容

<次第1. 開会>

○(事務局)

定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回長浜市未来こども若者会議を開催いたします。本日は、委員の皆さまには何かとご多用の中本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議の終了予定時刻は午後7時を予定しております。円滑な議事運営につきまして、委員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

まず初めに、本会議は「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第3項におきまして、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないこととされております。本日、会議の委員15名のうち12名のご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告申しあげます。また、本会議は「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」に基づき公開となっており、傍聴される方はまだいらっしゃいませんが、あらかじめご了承のほど、よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、未来創造部の中嶋部長からご挨拶を申しあげます。

<次第2. あいさつ>

○(中嶋部長)

夕方になりますと秋風を感じるようになりました。現在策定を進めております計画につきましては、こども大綱などを踏まえまして骨組みができました。長浜らしさとは何か、皆さまの声を大切にし、こども若者を主体におきながら、大人も一緒に頑張っていきたいと考えております。こども若者ボイスの仕組みを活用し、リアルに声を拾っております。本日は骨組みを説明して、キーワードや考え方などについてのワークショップを予定しております。会議は本日を含めて残り3回となります。やっていくからには全国に誇れる計画にしていきたいと思っておりますのでどうぞ

よろしくお願いいたします。

<次第3. 議事>

○（事務局）

それでは次第3の議事に入ります。議事の進行につきましては、「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第2項の規定に基づき、西川会長に議長として進行いただくこととなります。西川会長、よろしくお願いいたします。

○（議長）

それでは議事を進行します。今回の議事に関しましては、議事の(1)を午後5時25分までに進めまして、その後5分間の休憩をはさんで、議事の(2)は午後5時30分から午後6時50分頃までワークショップ形式で行いたいと考えております。特に議事の(2)は、各委員の皆さまから自由に意見を出していただく時間を多く確保したいと考えておりますので、円滑な議事運営にご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、まず議事の(1)について、事務局から説明をお願いします。

<議事(1)（仮称）長浜市未来こども若者計画の骨組みについて> 資料1

～事務局から説明～

○（議長）

ただいまの説明について、委員の皆さまのご意見、ご質問がありましたらお願いします。

～意見なし～

○（議長）

骨組みの感想としまして、次期計画をPDCAサイクルでまわしていくことがよくわかります。一方でPDCAは時間がかかり、加速度的に進む今日においては対応しきれないところがあり、ハイブリットとしてOODAループの考え方を取り入れて、まずは動くことが素敵だなと思います。他の自治体はPDCAでまわしているところが多いのではないのでしょうか。長浜市の自律性をもって動けることを示すことは素晴らしいです。

<議事(2)ワークショップ>

○ドリームマップに「大人たちの笑顔」を追加しましょう！

中学生トークで作成したドリームマップの空白部分に大人たちの笑顔を追加するために、大人が「どうしたらこどもたちと一緒に笑顔になれるか？」「どんな大人をみればこどもは笑顔になるか」をテーマに、「自分」「暮らし」「地域」「友人」「家族」「仕事」の6つのグループに分かれて意見を出し合った。

・「自分」グループ

こども若者のために大人が自己犠牲になってはいけない。大人が笑っていないと、こどもも笑えない。 ⇒ 「楽しい大人を生きる」

・「暮らし」グループ

妊娠した時に、初めは早く実家（市外）に帰りたいと考えていたが、長浜市での暮らしがよく居心地がよいと感じ、ほっとできる場所だと感じた。こどもが生まれてから市内の短大へ勉強することにもつながった。 ⇒ 「居心地の良い居場所がある」

・「地域」グループ

単に一緒だけでなく、交じり合っていること。関係がつくれていること。年齢に限らず交じ

り合っているようなまち。 ⇒ 「馴染みの関係がつかれるまち」

・「友人」グループ

こどもや年配の方など世代を超えて知識やスキルなどいろいろなことを伝承できるといい。大人の考えを押し付けずにこどもが自然と会話の中でやりたいことなどを引き出せるといい。

⇒ 「世代を超えた友人ができること」

・「家族」グループ

こどもが大人になって家を出て、別に暮らしている。今は妻と2人で食事や生活をしていることがとても寂しい。 ⇒ 「こどもも孫も大家族でいること」

・「仕事」グループ

経営したい人でもいろんな相談ができること、相談にのってあげられること。人をつなぎ、人を紹介する。 ⇒ 「めっちゃくちゃ楽しんで働いている人を紹介する」

○3つのアプローチに関連する重点的な施策について意見を出し合ひましょう！

定性的な評価指標を考えていくために、施策やキーワードを付せんに書き出し、3つのアプローチ（「安心」「成長」「希望」）にグルーピングして、さらに目的ごとにグルーピングを行った。各グループからの発表は次のとおり。

- ・やりたいことができる長浜か。こどもも若者もみんながプレイヤーになる。もっと大人や仲間とつながること。大人も失敗してもくじけずチャレンジできること。
- ・まず安心が大事。いろんな仲間と出会って共感できること。心、経済、時間の余裕があること。
- ・安心でないと成長や希望に進まない。親と一緒にいる時間が増えること。家族と遊ぶ時間が充実すること。体を使った遊び、自然の中での遊び。失敗しても励まされて達成していくことで自信が育まれる。遊び方を知らない大人が増えてきた。こどもたちも「テーマパークが一番楽しい」は少し残念。里山に行って葉っぱやどんぐりを拾ったり、体を使った遊び方がわからない人が増えている。親の遊び方教室があると良い。親が楽しめないとこどもも楽しめない。
- ・親が夫婦2人きりでゆっくりご飯が食べられること。親がほっと一息つく時間も大切。一時保育はあるが制限がある。「それは身近ですか」を指標にしてみた。話題性が重要で、知っていても利用されないと意味がない。話題性があると認知されやすい。「自分のやりたいことができていますか」「大人もこどもも楽しめていますか」。義務感で動くとしんどい。大人もこどもも笑顔になること。
- ・「あたたかなつながりのある社会」。困った人や問題を起こす人は除外されやすいが、実は生きづらさがある。取り残されがちな人がつながること。関係機関とのつながりも大事。個人主義の社会は生きづらい。自分も幸せ、他人も幸せであること。家庭や教育、社会や職場で。
- ・大人もこどももいくつになっても褒められたい。ワクワクする言葉、毎日の中に心をくすぐることがあるといい。みんな褒められると嬉しくなる。嬉しくなると前向きに考えられる。早く大人になりたいと思うこどもは何人いるのかな。ワクワクできる自分でいられるか。大人もこどももいくつになってもやりたいことがやれる、興味のアンテナが張れる。いくつになっても夢中になっている大人を見ていいよねと、こどもたちが感じられること。一緒にお互いの楽しさを共有できるといい。

（会長コメント）

こども計画はいろんな自治体が作って対応していると思いますが、大人もやっぱり笑顔で、というような視点はどこまで考えられているのかなと思います。結局、新しく若者の声を取り入れようよということも、言い訳程度に聞いているだけで、結局大人が全部やって作って、そして大人が自己犠牲を払って、こどもを真ん中にしていく。そういうところが多くなっているのではない

かなと。だから逆に、長浜のように、私も幸せでなきゃ嫌だ、素敵な大人になるんだ、夢を諦めない、そういうところからやはり考えていくのが大事だになっていうことを今日改めて感じさせていただきました。ありがとうございます。

(副会長コメント)

今日もとても楽しかったです。なんかいつもよりもより楽しくて。どんどん具体的になってきたからかなと思います。先ほど西川会長が言ってくださったように、やっぱり大人がワクワク参加するっていう視点も、本当にこれから長浜らしく大切にしていけたらいいなと思います。このワクワクしている大人を見て、こどもたちが長浜で暮らせてよかったなって思ってくれと、どんどんいいまちになっていくのではと思いました。あと会議は2回。ワクワクしながら私も楽しみにしたいと思います。今日はありがとうございます。

<次第4. 閉会>

○(事務局)

西川会長、円滑な議事の進行を誠にありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれまして長時間にわたりありがとうございました。いただいた意見を読み直して、次の計画の案をご提示する際に、あの意見はここに活かされていると言っただけのように、しっかりと落とし込んでまいりたいなと思います。閉会にあたりまして、未来創造部未来こども若者局村崎局長からお礼を申し上げます。

○(村崎局長)

本日は本当にありがとうございました。今日は何れだけ委員の皆さまの笑顔の回数が増えたかなと見ながら、どのグループもあの笑顔がたくさん広がっていて、こういう活動自体そのものもこどもの真ん中、社会の一步に繋がっているんだなと改めて思いました。今ほど課長が申しあげましたが、今日のご意見をどう計画案につなげていくのかという宿題をいただいて、次の会議にまた皆さまとご相談させていただければと思います。本日は本当にたくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。今日も笑顔をたくさんいただきました。本当にありがとうございました。

○(事務局)

次回、第3回の会議につきましては、あらかじめ皆さまにご連絡しておりますとおり、11月6日の午前10時から同じ場所で開催したいと思っております。その際には、今日の皆さまからいただいたご意見をしっかりと反映した計画案をお示ししたいと思っております。

それでは、以上を持ちまして、令和6年度第2回長未来こども若者会議を閉会させていただきます。本当にありがとうございました。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

以上